

2021年11月17日

## NFCタグを活用した「くまモンのICカード」のモバイル化に向けた実証実験実施について

当行グループ会社である肥銀カード株式会社（代表取締役 大仁田 尚）は、九州産交バス株式会社、大日本印刷株式会社（DNP）と共同で、熊本地域振興ICカード「くまモンのICカード」の“モバイル化”事業の一貫として、2022年2月下旬から、九州産交バス株式会社が運営する九州産交バスの路線において、下記のとおり、関係者による実証実験を実施しますので、お知らせいたします。

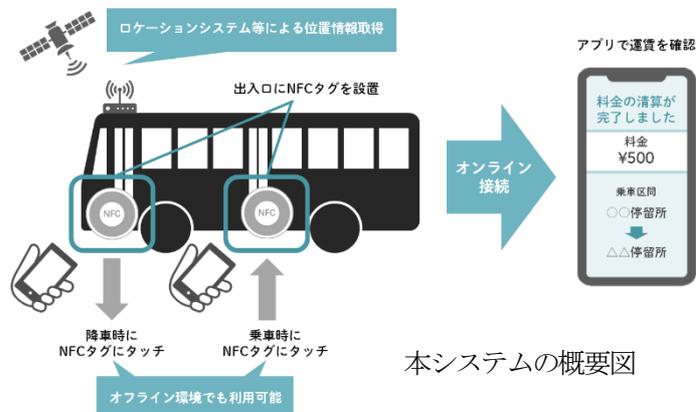
### 記

#### 1. 主旨

本実証実験は、NFCタグ（※1）を活用し、乗降区間によって料金が変わる地方バスで、スマートフォンで決済できるシステム（※2）を検証するものです。地方バスの運営会社は、読取端末を導入する必要なく、低コストでキャッシュレス決済対応ができるため、経営効率の改善が見込まれます。また、同じNFCタグを地域に密着した店舗などに配置することで、地方・地域全体のキャッシュレス化も可能になるため、スマートシティやMaaS（Mobility as a Service、移動手段のサービス化）領域にも活用できます。



バス車内での利用イメージ



本システムの概要図

※1 NFC (Near Field Communication) は、13.56 MHzの周波数を利用する通信距離10cm程度の近距離無線通信技術。非接触ICチップを搭載する「NFCタグ」や、このタグをスマートフォンなどで読み取るための技術仕様「リーダー/ライターモード」などの技術仕様はNFCフォーラムが策定しています。NFCタグは、QRコードと異なり、撮影による複製ができないなど、セキュリティ上のメリットがあります。

※2 特許出願中

## 2. 本システムの概要と特長

本システムでは、バスの料金ボックスのほか、店舗や施設に、予め発行した薄い小型の紙やシール形状のNFCタグを貼付・配置することで決済端末など特別な機器が必要なくキャッシュレス決済サービスを導入することが可能です。

利用者は、スマートフォンをNFCタグにタッチすることによって乗降車情報を蓄積し、ロケーションシステム等の位置情報を掛け合わせることで、オフライン環境で乗降車区間を識別します。利用者のスマートフォンがオンラインに接続したタイミングで、クラウドサーバー上で決済が完了します。NFCタグを読み取る乗降車時の通信環境に左右されないため、山間部など電波の届きにくい場所でも利用できることを想定しています。

## 3. 開発の背景

日本では政府が2025年にキャッシュレス決済比率40%、将来的には世界最高水準80%の達成を掲げて決済手段を含めた環境整備を推進しています。

肥後銀行は、豊かな地域振興の実現に向けて、「くまモンのICカード」事業により、資金を地域内で循環させ、データを活用することで、持続可能な熊本・地域づくりに貢献することを目指しています。

DNPは、長年にわたるICカードやスマートフォン決済でのサービスやソリューションの提供、高いセキュリティ環境下で決済事業者やサービス事業者との連携実績によるノウハウを保有しています。また、NFCのデバイスやサービス間の互換性を実現するための仕様、認定プログラム策定および普及啓蒙活動を行うグローバルな標準化業界団体「NFCフォーラム (NFC Forum)」に2016年からスポンサーメンバーとして参画し、NFCに関わる様々なユースケースを創出しており、これらのノウハウを活かして、今回のシステム開発にいたしました。

## 4. 今後の展開

肥後銀行グループは、“モバイル化”などの利便性向上を図りながら、地域における決済の中心インフラとして「くまモンのICカード」の決済基盤を提供してまいります。また、「決済データ」をベースに地域の高精度な人流データを生成することによって、地域循環型エコシステムの構築を目指します。

以上

《本件に関するお問い合わせ》  
肥後銀行 デジタルマーケティング部  
竹下  
電話 096-326-8688

《本件に関するお問い合わせ》  
肥銀カード カード業務部  
松本  
電話 096-359-8311